

JPFA CUP 3on3 SOCCER

スリー・オン・スリー サッカー



競技規則

Jリーグ選手協会
中日新聞社

目次

- 第1条 ピッチ
- 第2条 ボール
- 第3条 競技者の数
- 第4条 競技者の用具
- 第5条 主審および第2審判
- 第6条 試合時間
- 第7条 プレーの開始および再開
- 第8条 ボールインプレーおよびアウトオブプレー
- 第9条 得点の方法
- 第10条 ファウルと不正行為
- 第11条 フリーキック
- 第12条 ペナルティーキック
- 第13条 キックイン
- 第14条 ゴールキック
- 第15条 コーナーキック

第1条 ピッチ

【大きさ】

ピッチは、長方形とする。タッチラインの長さは、ゴールラインの長さより長い。

長さ：16m

幅：12m

【ピッチのマーキング】

ピッチはそのエリアの一部であって、エリアの境界を示すラインでマークする。長い方の2本の境界線をタッチライン、短い方の2本の境界線をゴールラインという。

すべてのラインの幅は8cmとする。

ピッチをハーフウェーラインで半分ずつに分けるものとする。ハーフウェーラインの中央にセンターマークを印す。

【ペナルティーエリア】

それぞれのゴールポストの外側を中心として、半径3mの四分円をゴールポストの外側のゴールラインから、ゴールラインに直角に描いた仮想ラインのところまで描く。それぞれの四分円の先端を、ゴールポストの間のゴールラインに平行な1.96mのラインによって結ぶ。

ペナルティーエリアの外枠を描く曲線をペナルティーエリアラインとする。

【コーナーマーク】

タッチラインとゴールラインの交点とする。

【交代ゾーン】

チームベンチ側のピッチで、それぞれのチームベンチの直前に交代ゾーンを設ける。競技者は、交代のために、ここから出入りする。

- 交代ゾーンは、チームベンチの直前に設け、その長さはそれぞれ3mとする。その両端をタッチラインに直角に幅8cm、長さ50cmで描く。50cmのうち25cmをピッチの内側、25cmをピッチの外側に描く。
- ハーフウェーラインとタッチラインの交点と各交代ゾーンの近い側の端との距離は、3mである。タイムキーパーの机の前のフリースペースは、空けておくものとする。

【ゴール】

ゴールは、それぞれのゴールラインの中央におく。ゴールは、それぞれのコーナーから等距離に垂直に立てられた2本のポストとその頂点を結ぶ水平なクロスバーとからなる。

ポストの間隔(内側間)は1.8mで、クロスバーの下端からピッチ面までの距離は1.3mである。

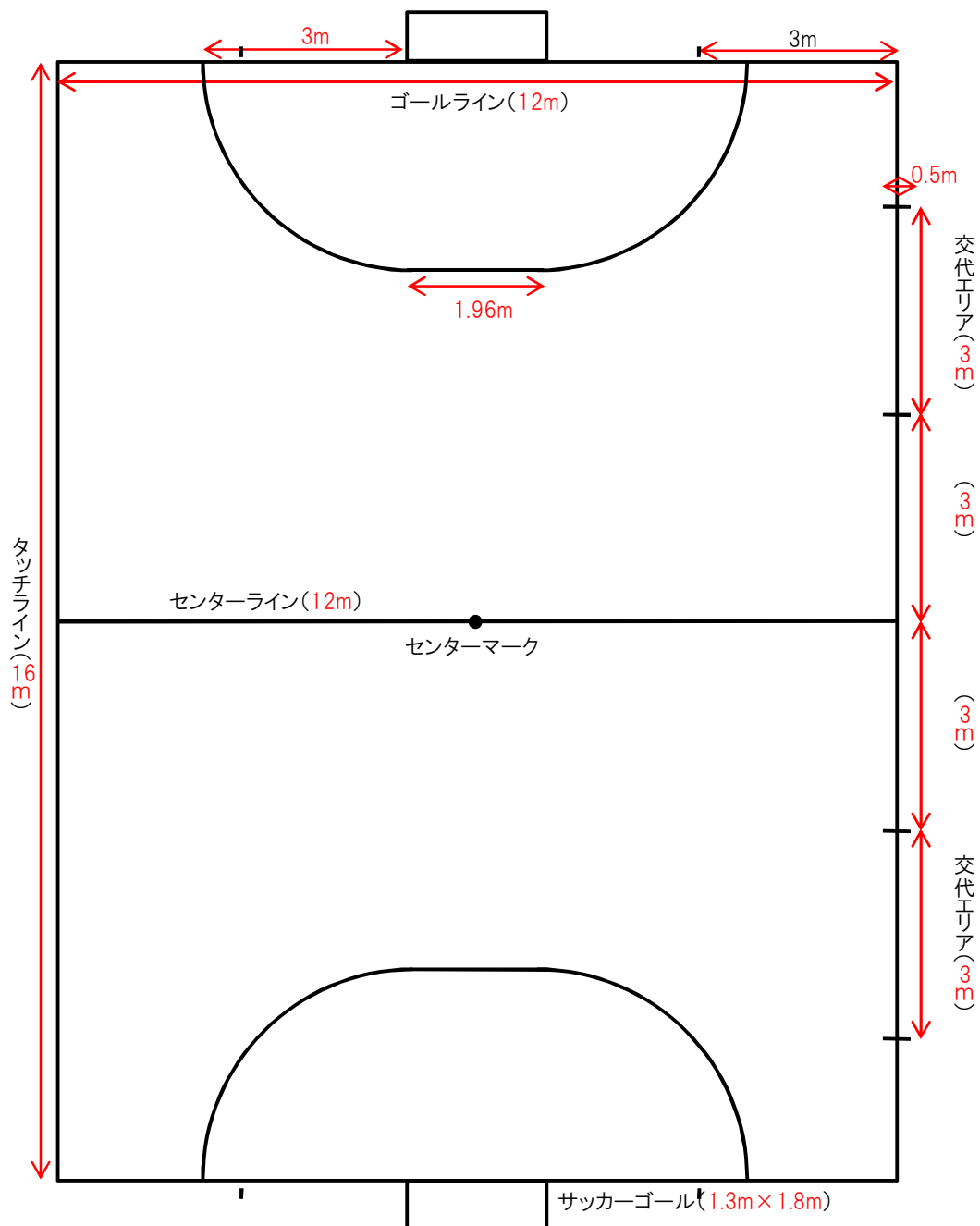
【ピッチの表面】

表面は、滑らかかつ平坦で、摩擦のないものとする。木または人工材質のものの使用が薦められる。コンクリートやアスファルトは、避けるべきである。

【決定】

1. コーナーキックを行うときの距離を確実に守らせるため、コーナーマークから3m離れたところに、ピッチの外側にゴールラインと直角なマークを描く。このマークの幅は、8cmである。このマークは、ゴールラインから5cm離して直角に15cmの長さで描く。3mの距離は、コーナーマークの内側からこのマークのゴール側の端までとする。
2. チームベンチは、タッチラインの後方で、タイムキーパーの机の前のフリースペースに隣接する。

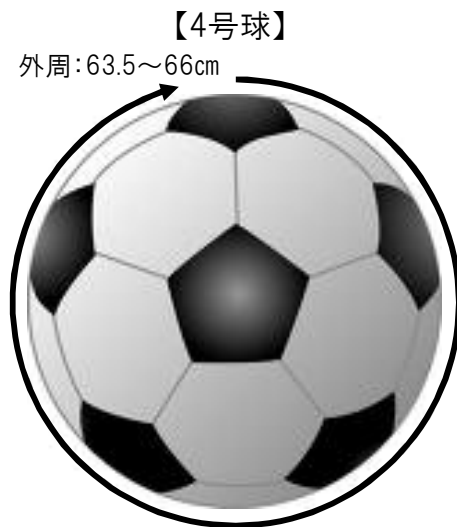
【コート図面】



第2条 ボール

【品質と規格】

- 球形
- 皮革または、適切な素材
- 外周は、66cm以下63.5cm以上(4号球)、70cm以下68cm以上(5号球)
- 重さは、試合開始時に390g以下350g以上(4号球)、450g以下410g以上(5号球)
- 空気圧は、海面の高さで0.6～1.1気圧(600～1100g/cm²)



- 重さ:350g～390g
- 空気圧:海面の高さで0.6～1.1気圧



- 重さ:410g～450g
- 空気圧:海面の高さで0.6～1.1気圧

【欠陥が生じたボールの交換】

試合中にボールが破裂する、またはボールに欠陥が生じた場合

- 試合を停止する。
- ボールに欠陥が生じた時の地点で交換したボールをドロップして、試合を再開する。

インプレー中ではない(キックオフ、ゴールキック、コーナーキック、フリーキック、ペナルティーキックまたはキックイン)ときにボールが破裂する、またはボールに欠陥が生じた場合

- 競技規則に従って試合を再開する。

試合中、ボールは主審の承認を得ずに交換できない。

第3条 競技者の数

【競技者】

試合は、3人以下の競技者からなる2つのチームによって行われる。

【交代の手続き】

交代要員は、最大7人までとする。

試合中に行われる交代の回数は、制限されない。

一度交代で退いた競技者は交代要員となり、他の競技者と交代してピッチに戻るることができる。

交代は、アウトオブプレー中に行われ、次の条件が遵守されなければならない。

- ピッチを出る競技者は、自分自身のチームの交代ゾーンから出る。
- ピッチに入る競技者も、自分自身のチームの交代ゾーンから入る。ただし、ピッチを出る競技者が完全にタッチラインを越えて外に出るまで、ピッチに入ることができない。
- 交代要員は、出場する、しないにかかわらず、審判員の権限および管轄下にある。
- 交代は、交代要員がピッチ内に入ったときに完了し、その瞬間から、その交代要員は競技者として有効となり、退いた競技者は競技者として有効ではなくなる。

【違反と罰則】

交代が行われるとき、交代する競技者がピッチから完全に出る前に交代要員がピッチ内に入った場合

- プレーを停止する。
- 交代する競技者に、ピッチの外に出るように指示する。
- 交代要員に警告を与え、イエローカードを示すとともに交代手続を正しくするためピッチから離れるよう命じる。
- 試合を停止したときにボールのあった場所から、相手チームによって行われる間接フリーキックによりプレーを再開する。

交代が行われるとき、自分自身の交代ゾーン以外の場所から交代要員がピッチ内に入る、または交代する競技者がピッチを出た場合

- プレーを停止する。
- 違反をした競技者に警告を与え、イエローカードを示すとともに交代手続を正しくするためピッチから離れるよう命じる。
- 試合を停止したときにボールのあった場所から相手チームによって行われる間接フリーキックによりプレーを再開する。

【決定】

- ①試合開始時には、両チームとも3人の競技者がいる。
- ②退場によっていずれかのチームの競技者の数が1人になった場合、試合を放棄しなければならない。

- ③1人のチーム役員は、試合中、技術的指示を与えることができる。しかしながら、チーム役員は競技者や審判の動きを妨げてはならず、常に責任ある態度で行動する。また、テクニカルエリアが設置されている場合、テクニカルエリア内にとどまっている。

第4条 競技者の用具

【安全】

競技者は、自分自身または他の競技者に危険となるような用具やその他のもの(あらゆる装身具を含む)を身に着けない。

【基本的な用具】

競技者が身につけなければならない基本的な用具は次のものであり、それぞれ個別のものである。

- ジャージまたはシャツ-アンダーシャツを着用する場合、その袖の色はジャージまたはシャツの袖の主たる色と同じでなければならない。
- ショーツ-アンダーショーツを着用する場合、その主たる色はショーツの主たる色と同じでなければならない。
- ソックス。
- すね当て。
- 靴-キャンバスまたは柔らかい皮革製で、靴底がゴムまたは類似の材質のトレーニングシューズまたは体育館用シューズのタイプのみが許される。

【すね当て】

- すね当ては、ソックスによって完全に覆われている。
- 適切な材質(ゴム、プラスチックまたは類似のもの)で作られている。
- それ相応の保護に役立つ。

【違反と罰則】

本条の違反に対して

- 主審または第2審判は、違反をした競技者にピッチから離れて用具を正すように、または身に付けていない用具を身に付けるように指示する。
その競技者は、審判員の1人に通知し、用具が適正であることが確認された後でなければピッチに戻ることができない。

【プレーの再開】

違反した競技者を警告するために主審または第2審判がプレーを停止した場合、主審または第2審判がプレーを停止したときにボールがあった場所から、相手側の競技者がける間接フリーキックでプレーを再開する。

【決定】

- 競技者はスローガンまたは広告の描かれているアンダーシャツを見せてはならない。
基本的な用具には、政治的、宗教的または個人的なメッセージをつけてはならない。
- ジャージには、袖がなければならない。

【主審と第2審判の権限】

試合は、任命された試合に関して競技規則を施行する一切の権限を持つ主審と第2審判の2人によってコントロールされる。

【職権と任務】

主審と第2審判は

- 競技規則を施行する。
- 反則をされたチームがアドバンテージによって利益を受けるときは、プレーを続けさせる。しかし、そのときに予期したアドバンテージが実現しなかった場合は、そのもととなった違反を罰する。
- 試合の記録を取り、試合前、試合中、また試合後に起こった出来事および競技者、またはチーム役員に対してとった懲戒措置について、大会主催者に報告する。
- 警告や退場となる違反を行った競技者に懲戒措置をとる。
- 不正行為を働いたチーム役員に懲戒措置をとる。また、必要であれば、レッドカードを示すことなく、ピッチのあるエリアから退かせる。
- 認められていない者がピッチ内に入らないようにする。
- 競技者が重傷を負ったと主審または第2審判が判断した場合、試合を停止し、その負傷者をピッチから運び出させるようにする。
- 競技者の負傷が軽いと主審または第2審判が判断した場合は、ボールがアウトオブプレーになるまでプレーを続けさせる。
- 使用するすべてのボールが第2条の要件に適合するようにする。
- 競技者が同時に二つ以上の反則を犯した場合、より重大な反則を罰する。

主審は

- タイムキーパーがいない場合、その任務を担う。
- JPFA CUP 3 on 3サッカー競技規則のあらゆる違反に対して、または外部からのなんらかの妨害があった場合、試合を停止し、一時的に中断し、または中止する。

【主審または第2審判による決定】

プレーに関する事実についての主審の決定は、得点となったかどうか、また試合結果を含め最終である。

主審または第2審判は、決定が正しくないことに気付いたとき、または決定を変える必要があると判断した場合、プレーを再開する前、または試合を終結する前であれば、決定を変えることができる。

【タイムキーパーについて】

- タイムキーパーは、コート記録要員が行う。
- ※ 試合が、口論・ボールの紛失などトラブルに関しては、一時タイムをストップする場合もある。その際の指示は主審から出すとする。
- タイムアウトは無し。
- ★ 第3審判は無し。

【決定】

- 1.主審と第2審判が同時に反則の合図をし、どちらのチームを罰するかに不一致があった場合、主審の判定が最終となる。
- 2.主審と第2審判は、ともに競技者に警告および退場を命ずることができる。しかし、両者の間に不一致があった場合、主審の決定が最終となる。
- 3.第2審判による不法な干渉または不当な行為があった場合、主審はその第2審判を解任し、代替を補充し、大会主催者に報告する。
- 4.第2審判も笛を持ち、主審とは反対側のサイドのピッチで任務を行う。

第6条 試合時間

【プレーの時間】

試合は、前、後半の7分ずつ行われる。

【ハーフタイムのインターバル】

ハーフタイムのインターバルは、1分を越えてはならない。

第7条 プレーの開始および再開

【試合前】

コインをトスし、トスに勝ったチームが試合の前半に攻めるゴールを決める。他方のチームが、試合開始のキックオフを行う。トスに勝ったチームは、試合の後半開始のキックオフを行う。試合の後半の開始時に両チームはエンドをかわり、前半と反対のゴールを攻める。

【キックオフ】

キックオフは、次のときに、プレーを開始する、または再開する方法のひとつである。

- 試合開始時。
- 試合の後半開始時。
- 得点後の試合再開時。
- 延長戦が行われる場合、その前、後半の開始時キックオフから直接得点することができる。

キックオフから直接得点することはできない。

【進め方】

- すべての競技者は、ピッチの味方半分内にいる。
- キックオフをするチームの相手チームは、ボールがインプレーになるまで3m以上ボールから離れなければならない。
- ボールは、センターマーク上に静止している。
- 主審が合図をする。
- ボールは、けられて前方に移動したとき、インプレーとなる。
- キッカーは、他の競技者がボールに触れるまではボールに再び触れない。

【違反と罰則】

他の競技者がボールに触れる前にキッカーがボールに再び触れた場合

- 違反の起きた場所から行う間接フリーキックを相手チームに与える。

キックオフの進め方のその他の違反に対しては、キックオフを再び行う。

【ドロップボール】

ドロップボールは試合を再開する方法のひとつで、ボールがインプレーのときに、ボールがタッチラインやゴールラインを越える前に、競技規則に他に規定されていない理由によって必要が生じた一時的な停止したのちに行う。

【進め方】

主審は、プレーを停止したとき、ボールのあった場所でボールをドロップする。

ボールがピッチに触れたときにプレーが再開される。

【違反と罰則】

次の場合、ボールを再びドロップする。

- ボールがピッチ面に触れる前に、競技者がボールに触れる。
- ボールがピッチ面に触れたのちに、競技者が触れることなくピッチの外に出る。

【特別な状況】

自分のペナルティーエリア内で与えられた守備側チームのフリーキックは、ペナルティーエリア内の任意の地点から行う。

ペナルティーエリア内でプレーを一時的に停止したのちに試合を再開する場合、ドロップボールは、プレーを停止したときにボールのあった位置に最も近いペナルティーエリアライン上で行う。

第8条 ボールアウトプレーおよびボールインオブプレー

【ボールアウトオブプレー】

ボールは、次のときにアウトオブプレーとなる。

- ピッチ上または空中にかかわらず、ボールがゴールラインまたはタッチラインを完全に越えた。
- 主審または第2審判がプレーを停止した。
- ボールが天井に当たる。

【ボールインプレー】

これ以外のすべての時間は、次の場合も含めて、ボールはインプレーである。

- ボールがゴールポスト、クロスバーからはね返ってピッチ内にある。
- ボールがピッチ内にいる主審または第2審判のいずれかに当たる。

【決定】

1. 屋内のピッチで試合が行われているときにボールが天井に当たった場合、最後にボールに触れたチームの相手チームに与えられるキックインにより試合を再開する。キックインは、ボールが当たった天井下の場所に最も近いタッチライン上から行う。

第9条 得点の方法

【得点】

攻撃側の競技者が手や腕を用いて、ボールを投げ、運び、または意図的に推し進めた場合を除き、ゴールポストの間とクロスバーの下でボールの全体がゴールラインを越えたとき、その前にゴールにボールを入れたチームが競技規則の違反を犯していなければ、1得点となる。

【勝利チーム】

試合中により多くの得点をあげたチームを勝ちとする。両チームが同点か、共に無得点の場合は、試合は引き分けである。

【競技会規定】

勝利チームを決定して試合を終了させると競技会規定に規定している、または決勝戦が引き分けで終了した場合、次の手続きのみが考慮される。

- 延長戦。

第10条 ファウルと不正行為

【間接フリーキック】

競技者が次の7項目の反則を、不用意に、無謀に、または過剰な力で犯したと主審または第2審判が判断した場合、間接フリーキックが相手チームに与えられる。

- 相手競技者をける、またはけろうとする。
- 相手競技者をつまずかせる、またはつまずかせようとする。
- 相手競技者に飛びかかる。
- 相手競技者をチャージする。
- 相手競技者を打つ、または打とうとする。
- 相手競技者にタックルする。(スライディングタックル含む)
- 相手競技者を押す。

次の3項目の反則を犯したときも、間接フリーキックが相手チームに与えられる。

- 相手競技者を抑える。
- 相手競技者につばを吐く。
- ボールを手で意図的に扱う。

競技者が次のことを行ったら主審が判断した場合も、反則の起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる。

- 危険な方法でプレーする。
- 意図的に相手の前進を妨げる。
- 競技者を警告する、または退場させるためにプレーを停止する違反で、第10条のこれまでに規定されていないその他の違反を犯す。

間接フリーキックは、上記の反則の起きた場所から行う。

【ペナルティーキック】

競技者が自分自身のペナルティーエリア内で上記の項目の反則をインプレー中に犯した場合、ボールの位置に関係なく、ペナルティーキックが与えられる。

【懲戒の罰則】

競技者または交代要員のみレッドまたはイエローカードが示される。

主審および第2審判は、ピッチに入ったその時から試合終了の笛を吹いたのちピッチを離れるまで、懲戒の罰則を行使する権限を持つ。

【警告となる反則】

競技者が次の項目の反則を犯した場合、警告される。

- 反スポーツ的行為。
- 言葉または行動による異議。
- 繰り返し競技規則に違反する。
- プレーの再開を遅らせる。
- コーナーキック、キックイン、フリーキックまたはゴールキックでプレーが再開されるとき、規定の距離を守らない。
- 主審または第2審判の承認を得ずピッチに入る、復帰する、または交代の手続きに違反する。
- 主審または第2審判の承認を得ず意図的にピッチから離れる交代要員が次の項目の反則を犯した場合、警告される。
- 反スポーツ的行為。
- 言葉または行動による異議。
- プレーの再開を遅らせる。

【退場となる反則】

競技者または交代要員が次の項目の反則を犯した場合、退場が命じられ、レッドカードが示される。

- 著しく不正なファウルプレー。
- 乱暴な行為。
- 相手競技者またはその他の者につばを吐く。
- 意図的に手でボールを扱って、相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止する
- フリーキックまたはペナルティーキックとなる違反で、ゴールに向かっている相手競技者の決定的な得点の機会を阻止する。
- 攻撃的な、侮辱的な、または口汚い発言や身振りをする。
- 同じ試合の中で二つ目の警告を受ける。

交代要員が次の反則を犯した場合、退場を命じられる。

- 相手チームの得点または得点の機会を阻止する。

【決定】

- 1.退場を命じられた競技者は、引き続いてその試合に復帰することはできない。且つ交代ベンチに着席することも許されない。
- 2.相手の安全に危険を及ぼすようなタックルは、著しく不正なファウルプレーとして罰せられる。
- 3.ピッチ上のどこであっても、主審を欺くことを意図したシミュレーションは、全て反スポーツ的行為として罰せられる。
- 4.得点を喜ぶためにジャージーを脱いだ競技者は、反スポーツ的行為で警告されなければならない。

第11条 フリーキック

【フリーキックの種類】

フリーキックは、全て間接のみである。

【間接フリーキック】

ボールがゴールに入る前に、他の競技者に触れた場合にのみ、得点が与えられる。

【フリーキックの位置】

相手競技者は、ボールがインプレーとなるまで、ボールから3m以上離れる。守備側チームがそのチームのペナルティーエリアからフリーキックを行うとき、すべての相手競技者は、そのペナルティーエリアの外にいる。ボールは、けられるか触れられてペナルティーエリアから出たのちインプレーとなる。

【違反と罰則】

フリーキックを行うとき、相手競技者が規定の距離よりボールの近くにいる場合

- キックは、再び行われる。

ボールがインプレーとなって、他の競技者に触れる前に、キッカーが再びボールに触れた場合

- 違反の起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる。

【シグナル】

キックが行われるときボールは静止しており、キッカーは、他の競技者がボールに触れるまで再びボールに触れることはできない。

間接フリーキック

- 主審および第2審判は、一方の腕を頭上に上げて、間接フリーキックであることを示し、キックが行われ、そのボールが他の競技者に触れるかまたはアウトオブプレーになるまで、その腕を上げ続ける。

※4秒以上経過しても、再開しない場合は、主審から再開を早めるよう注意を促す。

第12条 ペナルティーキック

【ペナルティーキック】

フリーキックとなる反則を自分のペナルティーエリアの中で、インプレー中に犯したとき、相手チームにペナルティーキックを与える。

ペナルティーキックから直接得点することができる。

前、後半の終了時および延長戦の前、後半の終了時に行うペナルティーキックのために時間を追加する。

【ボールと競技者の位置】

ボールは、

- 反則が起きた反対側のペナルティエリア内に置く。
- ※ペナルティエリア内ならどこでも置ける。

ペナルティーキックを行う競技者は、

- 正しく指定される。

キッカー以外の競技者は、次のように位置する。

- ボールが置かれる側のゴールライン上に位置する。
- ボールから3m以上離れる。

【進め方】

- ペナルティーキックを行う競技者は、ボールを相手チーム側のゴールに向かってける。
- ボールが他の競技者に触れるまで、キッカーは再びボールに触れることができない。
- ボールは、けられて前方へ移動したとき、インプレーとなる。

ペナルティーキックを通常の時間内に行う、または前、後半もしくは延長戦の時間を追加して再び行うとき、ボールが両ゴールポストの間とクロスバーの下を通過する前に、次のことがあっても得点が与えられる。

- ボールがゴールポスト、クロスバーのいずれかまたはそれらに触れる。

【違反と罰則】

守備側競技者が本条に違反した場合

- 得点にならなかった場合、キックは再び行われる。
- 得点になった場合、キックは再び行われぬ。

キックを行う競技者の味方競技者が本条に違反した場合

- 得点になった場合、キックは再び行われる。
- 得点にならなかった場合、主審または第2審判はプレーを停止し、違反が犯された場所から守備側チームの間接フリーキックで試合を再開する。

ボールがインプレーになったのち、キックを行う競技者が競技規則に違反した場合

- 違反の起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる。

守備、攻撃両チームの競技者が競技規則に違反した場合

- ペナルティーキックは、再び行われる。

ボールが前方に進行中、外的要因がボールに触れた場合

- キックは、再び行われる。

ボールがクロスバー、ゴールポストからフィールド内にはね返ったのち、外的要因がボールに触れた場合

- 主審または第2審判は、プレーを停止する。
- 外的要因がボールに触れた場所で、ボールをドロップしてプレーを再開する。

【キックイン】

キックインは、プレーを再開する方法のひとつである。

キックインから直接得点することはできない。

キックインは

●ピッチ上または空中にかかわらず、ボールの全体がタッチラインを越えたとき、または天井に当たったときに与えられる。

- ボールがタッチラインを越えた場所から、キックが行われる。
- 最後にボールに触れた競技者の相手競技者に与えられる。

【ボールと競技者の位置】

ボールは

- タッチライン上に静止させる。
- プレーに戻すため、任意の方向にけり入れることができる。

キックインを行う競技者は

- ボールをキックするとき、いずれかの足の一部をタッチライン上またはタッチラインの外のピッチ面につける。

守備側のチームの競技者は

- キックインを行う場所から3m以上離れる。

【進め方】

- キックインを行う競技者は、ボールを受け取ってからタッチライン上に乗せ、ボールが静止した状態でキックインを行う。
- キックインを行う競技者は、他の競技者がボールに触れるまで、再びボールに触れることはできない。
- ボールは、ピッチに入ったとき、直ちにインプレーとなる。

※4秒以上経過しても、再開しない場合は、主審から再開を早めるよう注意を促す。

【違反と罰則】

次の場合、間接フリーキックが相手チームに与えられる。

- 他の競技者がボールに触れる前に、キックインを行った競技者がボールを再び触れたとき、間接フリーキックは、違反の起きた場所から行われる。

次の場合、相手チームの競技者によって再びキックインが行われる。

- キックインが正しく行われない。
- キックインが、ボールがタッチラインを越えた場所以外の位置から行われる。
- その他、本条に違反する。

相手競技者がキックインを正しくできないように干渉する、または妨害する場合

- その競技者は、反スポーツ的行為で警告されイエローカードを示される。

【ゴールキック】

ゴールキックは、プレーを再開する方法のひとつである。

ゴールキックから直接得点することはできない。

ゴールキックは

- 攻撃側のチームの競技者が最後にボールに触れ、ピッチ上または空中にかかわらず、ボールの全体がゴールラインを越え、第9条による得点とならなかったときに与えられる。

【ボールと競技者の位置】

ボールは

- ゴールライン上に静止させる。
- プレーに戻すため、任意の方向にけり入れることができる。

ゴールキックを行う競技者は

- ボールをキックするとき、いずれかの足の一部をゴールライン上またはゴールラインの外のピッチ面につける。

守備側のチームの競技者は

- ゴールキックを行う場所から3m以上離れる。

【進め方】

- ゴールキックを行う競技者は、ボールを受け取ってからゴールライン上に乗せ、ボールが静止した状態でキックインを行う。
- ゴールキックを行う競技者は、他の競技者がボールに触れるまで、再びボールに触れることはできない。
- 守備側チームの競技者がゴールライン上の任意の地点からゴールキックを行う。
- ボールは、ピッチに入ったとき、直ちにインプレーとなる。

※4秒以上経過しても、再開しない場合は、主審から再開を早めるよう注意を促す。

【違反と罰則】

次の場合、間接フリーキックが相手チームに与えられる。

- 他の競技者がボールに触れる前に、ゴールキックを行った競技者がボールを再び触れたとき、間接フリーキックは、違反の起きた場所から行われる。

次の場合、相手チームの競技者によって間接フリーキックが行われる。

- ゴールキックが正しく行われない。
- その他、本条に違反する。

第15条 コーナーキック

競技者がボールを保持してから4秒以内にゴールキックを行わなかった場合

- 相手チームにコーナーキックが与えられる。ボールはボールが出たところに近い方のコーナーマークに置かれる。

相手競技者がゴールキックを正しくできないように干渉する、または妨害する場合

- その競技者は、反スポーツ的行為で警告されイエローカードを示される。

【コーナーキック】

コーナーキックは、プレーを再開する方法のひとつである。

コーナーキックから、相手チームのゴールに限り、直接得点することができる。

コーナーキックは

- 守備側チームの競技者が最後にボールに触れ、ピッチ上または空中にかかわらず、ボールの全体がゴールラインを越え、第9条による得点とならなかったときに与えられる。

【進め方】

- ボールは、出たところに近い方のコーナーマークの中に置かれる。
- 相手競技者は、ボールがインプレーになるまでコーナーマークから3m以上離れる。
- 攻撃側の競技者がボールをける。
- ボールは、ピッチに入ったとき、直ちにインプレーとなる。
- キッカーは、他の競技者がボールに触れる前に、再びボールに触れてはならない。

※4秒以上経過しても、再開しない場合は、主審から再開を早めるよう注意を促す。

【違反と罰則】

次の場合、間接フリーキックが相手チームに与えられる。

- 他の競技者に触れる前にコーナーキックを行った競技者がボールを再びプレーした場合、間接フリーキックは、違反の起きた場所から行われる。

その他の違反に対して

- コーナーキックが再び行われる。